

リーダー業務改善 ～負担軽減を図るための取り組み～

千装真由美 田村 知美 筒井ゆかり 井上 佳代

静岡赤十字病院 化学療法センター

要旨：化学療法センターではリーダーは業務量が多く時間外労働も多くなっていた。リーダーを行う看護師の負担を軽減する為に、業務改善を行った。業務改善を行った結果、時間外労働の時間も減り、精神的負担も軽減した。またリフレクションや他部門との情報共有する時間が持てよりよい看護につなげることができた。

Key words：業務改善，時間外労働削減

I. はじめに

当院の化学療法センターでは、①リーダー②注射係③点滴係④処置係の4つの機能別で、業務を行っていた。その中でリーダー業務量が多く、結果、時間外労働も多くなり、かなりの負担となっていた。2009年に日本看護協会が実施した調査結果において、約2万人が月60時間を超える超過勤務を行っている実態が明らかになった¹⁾。また超過業務と疲労自覚症状と医療事故への不安とに強い関連があることも検証された。これらのことから、化学療法センターは治療部門であり、患者さんに直接影響を与える部署で、看護師の精神的な負担も大きい。

今回リーダー業務の負担軽減を目的に業務改善を行ったので以下に報告する。

II. 目的

リーダー業務量の負担軽減

III. 方法

平成22年8月からリーダーは1人が1週間（月～金）続けて行い、翌週1週間を別のスタッフが行っていたが、平成26年8月から1日交代とした。2日続けてリーダーを行わないようにし、注射系のスタッフが翌日リーダーを行う。

IV. 結果

リーダー業務を行っているスタッフ3名の延べ回数、時間は、改善前は4月から7月までの4ヵ月間で22回、月平均5.5回の超過勤務回数であったものが改善後の8月から11月までの4ヵ月間では8回、月平均2回と減少している。時間においても改善前は4月から7月までの4ヵ月間で7,812分（130.2時間）、月平均1,953分（32.55時間）の超過

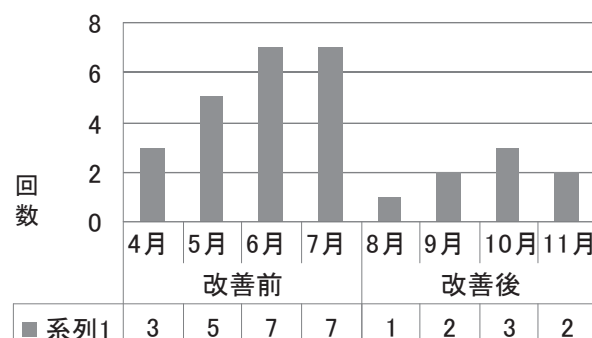


図1 超過勤務回数表

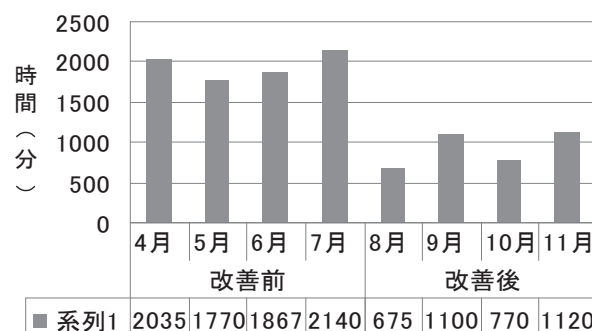


図2 超過勤務延べ時間表

勤務時間であったものが改善後の8月から11月までの4ヵ月間では3,665分(61.08時間)、月平均916分(15.27時間)と減少している。回数、時間ともに減少がみられた(図1, 2)。

また仕事内容も翌日も続けてリーダーを行わなくなった事から、翌日治療患者の情報収集及び、カルテ準備がなくなりリーダーの業務が緩和されることになった。

V. 考 察

リーダーの業務変更の取り組みをしたことにより、翌日の準備となる情報収集及び、カルテ準備の時間が削減され、負担が軽減した。その結果、超過勤務時間が減少した。注射係も業務時間内で翌日のリーダー準備ができていた。スタッフの身体的な疲労が軽減し、精神的にもゆとりがもてるようになった。

また薬剤師を含めたリフレクションを行う時間を、毎日設けることができた。東氏は「看護師はリフレクションを行うことで、「その状況でいかに異なる対処ができたであろうか、そして他のどんな知識が役立ったであろうか」ということが探求でき、状況適合した解決を行うことができるようになります。」「状況を判断し、行為をし、行為を振り返ることによって、次の行為を行い、患者

のもつ本質的な問題に届く実践を行うことができる」²⁾と述べている。リフレクションを行う時間が持てたことで、患者の情報共有だけではなく、自分が実際経験していなかったことの状況を考え判断することができ、次の実践で同じような場面にあった時に役立てる事ができる。また実際行為を行ったものは他者の考え方、対処の仕方を学ぶことができ次に生かす事ができ看護の質の向上につながった。

VI. おわりに

自分たちの負担軽減を目的とした業務改善であったが、それだけでなく、他部門との情報共有、リフレクションの時間の確保ができた。

文 献

- 1) 小川忍. (時間外勤務を見直そう 患者と職員のための労働時間管理適正化)「過労死を二度と繰り返さない」「安全で質の高い看護の提供のために」ナースのかえる・プロジェクトの実践を進めよう! 看護 2009; 61 (12): 42-50.
- 2) 東めぐみ, 看護リフレクション入門 経験から学び新たな看護を創造する. 横浜: ライフサポート社; 2013. P.30-32.